

カラー漫画 50P超



私はただ大股を広げて
蟲の肉穴になることじ

おるせいなのか
乳房をじゃぶる蟲

女騎士×芋虫
種付け・妊娠・出産 戦記

子育ても!

～登場キャラ紹介～

ヘレナ

村の被害を受け王都から派遣された騎士
剣の腕は一流で仲間からの信頼も厚い
スタイル抜群で頻繁に交際を申し込まれる
本人は恋愛に興味が無い



芋虫

残飯虫・肥溜め虫など

地域によって呼称が変わる

農作物を食い荒らす害虫として

農民の間ではそこそこ有名

仕留めても金にならないので

誰も狩りたがらない

「畑の作物を食い荒らす害獣を駆除して欲しい」
そんな村人達の依頼を受け
洞窟に訪れた私の目の前に
現れたのは

こんな雑魚が
犯人とはな

お前に恨みはないが
これも任務だ

悪く思うなよ

カチャ……

拍子抜けだ

獣などではなくただの大きな
下級蟲モンスターだった

この時
私は油断していた

この程度の雑魚にこの私が
負けるなどありえない



剣を芋虫に振り下ろそうとした瞬間
私は急にめまいをおぼえ
意識を失ってしまった

蟲は私が剣を抜く前に
口から毒息を吐き出していたのだ

どれだけの時間
意識を失っていたのかはわからない
肌にへばりつく粘ついた感触と
下腹部の圧迫感で目を覚ました

悍ましい光景が目飛び込んできた
目の前には私の身体にへばりつく巨大な芋虫

ふぎけるなッ!!

離れろッ!

抵抗しようにも毒で体の自由が効かず
武器も装備も見当たらない

虫は無抵抗な私の体内に粘液まみれの
汚い生殖器を挿入した

そんな汚いモノを
私の中に挿れるなあ!!

抜け...えッ!

ギッ
ッ

ギッ
ッ



蟲が私の言葉に従って耳を貸すはずもなく
生殖本能に従って無防備な私の身体を犯し始める

グシッ
グシッ
グシッ

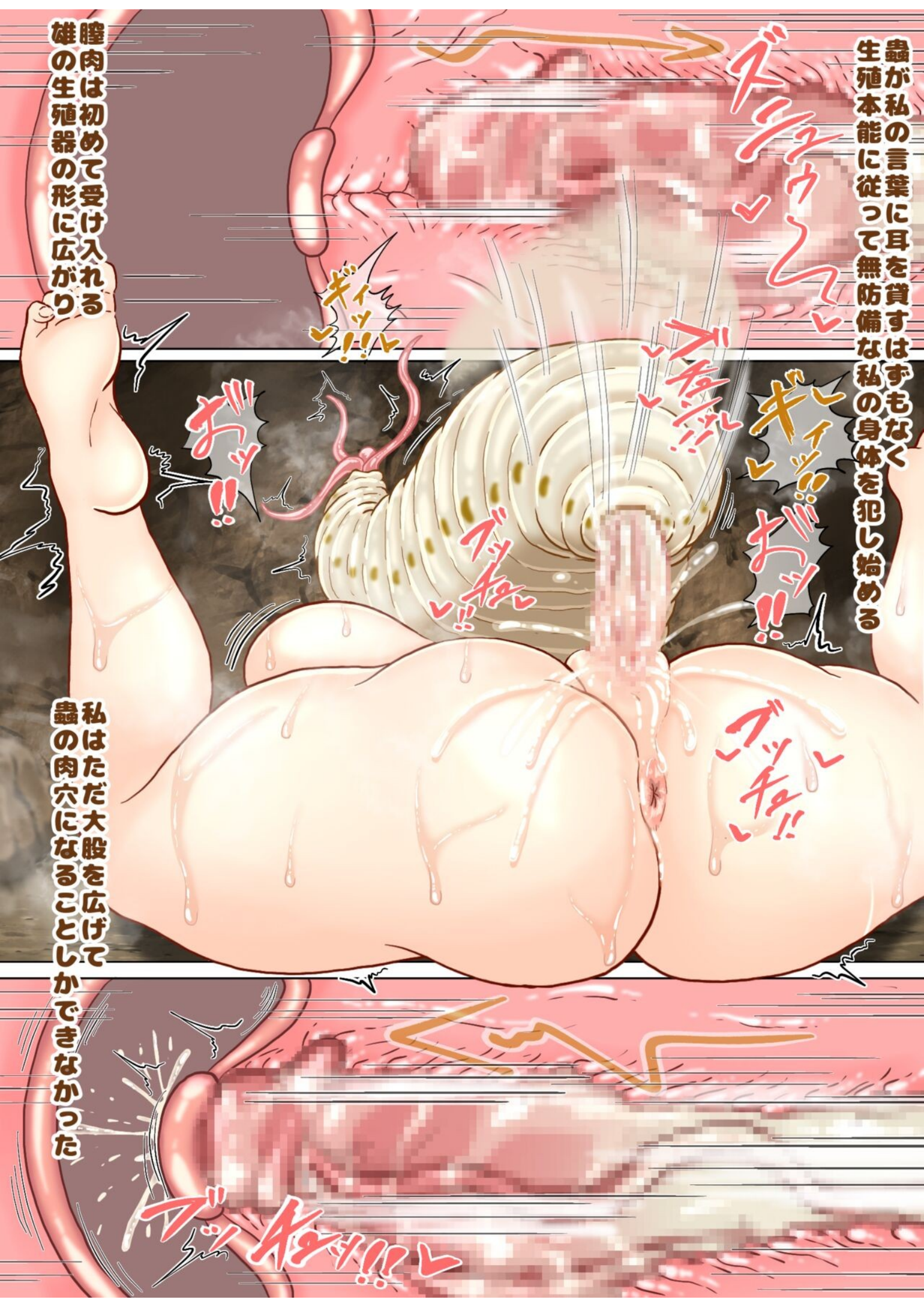
グシッ
グシッ
グシッ

グシッ
グシッ
グシッ

グシッ
グシッ
グシッ

腫肉は初めて受け入れる
雄の生殖器の形に広がる

私はただ大股を広げて
蟲の肉穴になることしかできなかった



唯一動く口を使つて
抵抗しようとするものの

虫ケラが調子に
乗るな……ッ!

悪臭のする舌を口内に
ねじ込まれてしまう



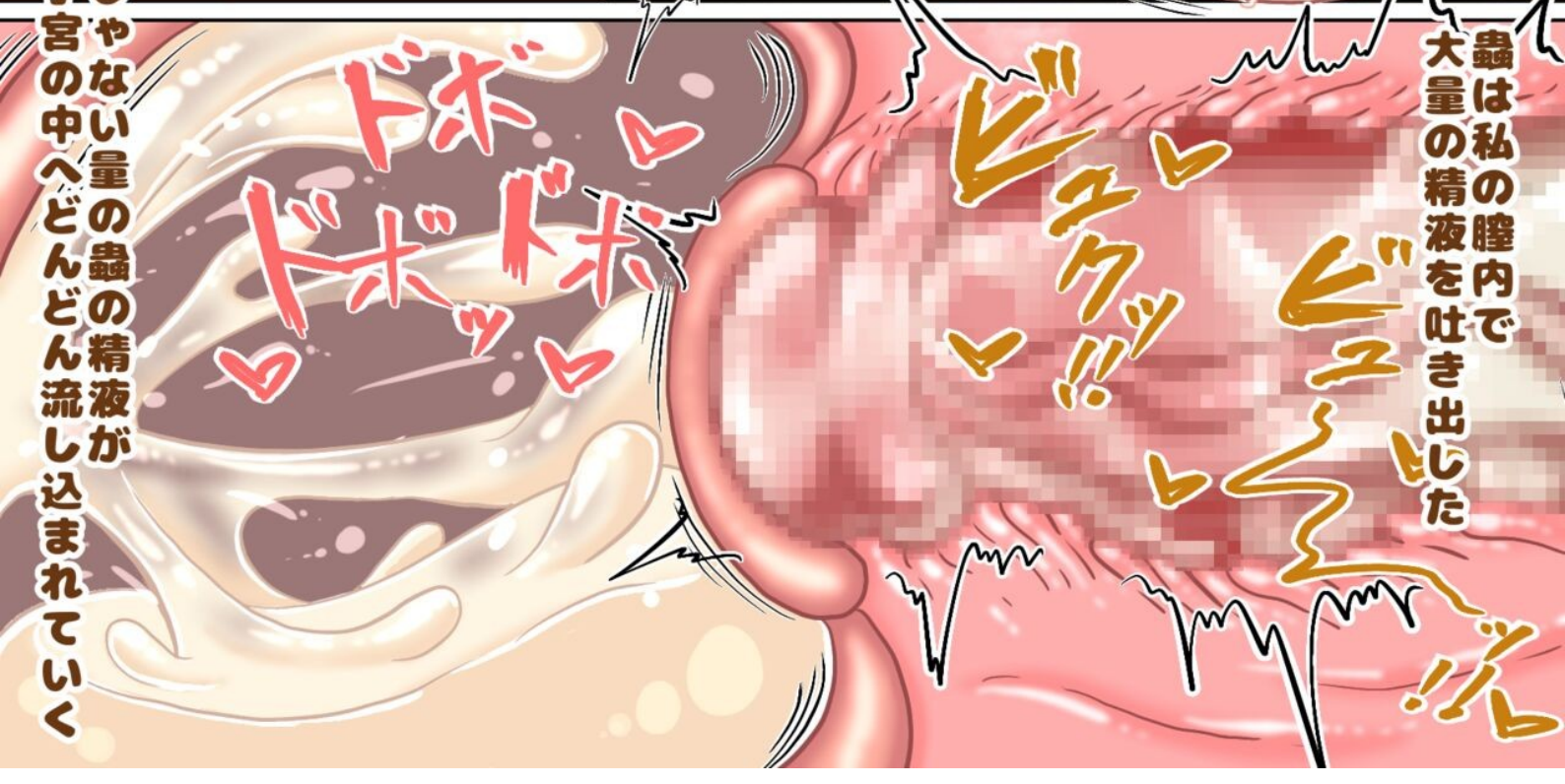
上も下も繋がったまま
互いの粘液と涎を絡ませる様は
交尾そのものだった



やがて膣の中で蟲の生殖器が
一際大きく膨らんだと思つた瞬間



蟲は私の膣内で
大量の精液を吐き出した



尋常じゃない量の蟲の精液が
私の子宮の中へどんどん流し込まれていく

長い長い射精が終わりと腫から引き抜かれる

ぼつかり開いた腫口からは子宮に
どろどろと流れ出てきた



種付けを終え満足した蟲が3本の舌で
乳頭をしゃぶっているのを見て

私は直感でこの蟲は
私を孕ませるつもり
なのだと理解した



それから蟲に種付けされる日々が始まった



蟲は私を殺そうとも喰べようともせず
毎日毎日精液が出なくなるまで私を犯す

蟲の性欲は底無しで
交尾していない時間の方が短いほど

一向に弱まる気配の無い毒のせい
私は芋虫の便利な肉穴に成り下がっていた



痺れる身体でどうにか抵抗しようとしても
蟲は交尾をやめようとはしない



はじめはじめとした洞窟の中には
体液や粘液が混ざり合った
交尾の匂いが充満していた

ブクブク!!

ギョッ

ギョッ

ぐっ



子宮には毎日のように
蟲の精液を注がれる

ブクブク!!

ギョッ

ぐっ

おやおお!!

ドボドボドボッ

最悪なのは交尾の時間だけではない

ブチュッ

ビー

ビー

蟲は森で仕留めた餌を腹に詰め
巢に帰ってきたあと胃袋の中身を
私の中へ吐き出すのだ

ドブ
ジュッ

ジュッ

プクッ

ビュッ



ネオッ

ビュッ

ジュッ

ジュッ

何度も吐き出したが
蟲は私が飲み込むまで何度も何度も
餌を口内に流し込んで来た

ゴ
エ
エ
エ
エ
エ
エ



ジュッ

ジュッ

ジュッ

餓死することもできないまま
毎日蟲と交尾させられた

いすれ私に飽きれば
殺してくれるかもしれ
ぬの苗床として生かさ
れない日々の中で
そんなことを考えるよ
うになった



だが蟲が私に飽きる様子は無く

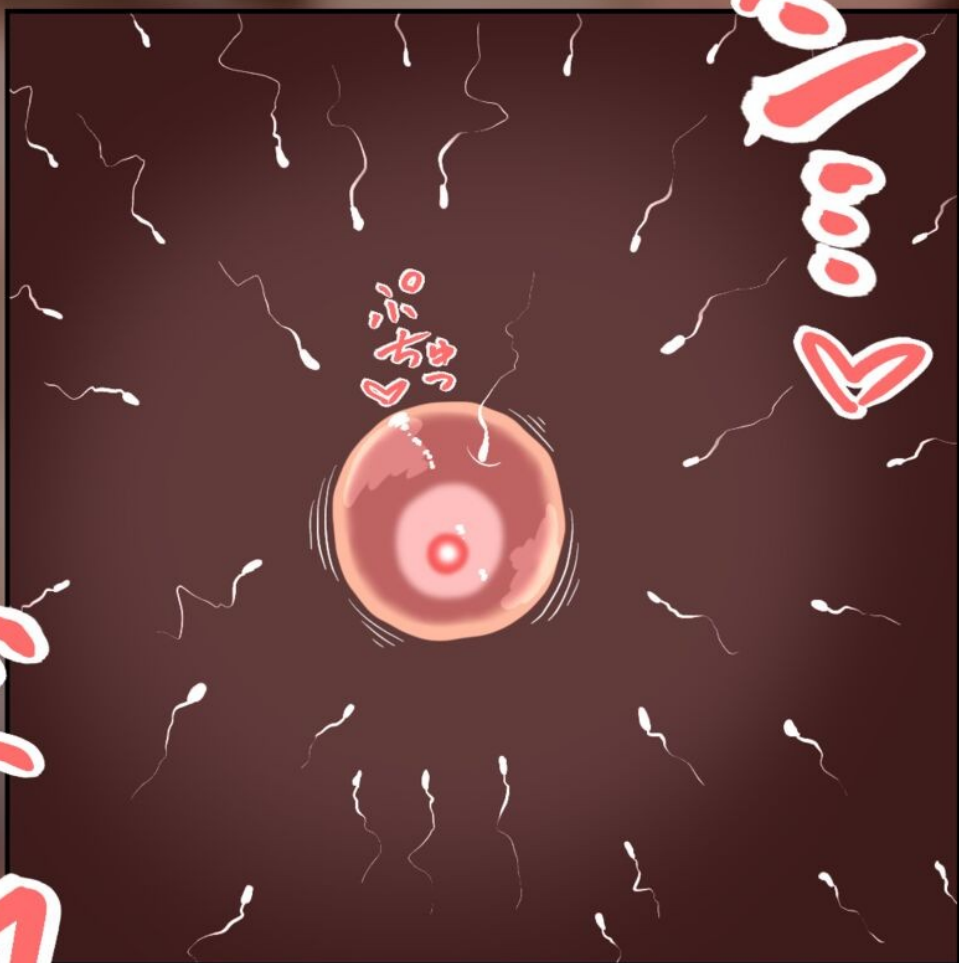
私はこの地獄が永遠に続くのではないかと絶望し
考える気も抵抗する気力も失っていった



しがい

本当の地獄はまだ始まっていないかった！

ドクン！



ドクン！

身体に違和感を覚えたのは
巢穴に来てしばらく経つてから

吐き気を催す事が多くなり
腹部がふつくりと膨らんできた

違和感の正体にはすぐに気づいた

しかし毒で動かない身体では
どうすることもできない

最初はほんのわずかな膨らんでいただけの腹部も
目に見えて大きくなつていった

私は遂に芋虫の仔を妊娠してしまった

ベ
ッ
イ
ン
リ

うぜ...
ゴロゴロ

うぜだ...

幼虫の成長と共に腹部の丸みも
重さもどんどん増している

腹の中には既に仔がいる
のにも関わらず
蟲が私との交尾をやめる
ことはなかった

ボ
ネ
ッ
ッ

ビクッ

ビクッ

グ
グ
グ

グ
グ
グ



時折胎の中で動く生き物が人間の形を成していかないことを私は感じ取っていた

だがここまで育ってしまっただけはどうすることもできない

胎の子はすくすくと育つていった



蟲は私が妊婦になっても
毎日のように交尾を迫る



アッアッ♡

アッアッ♡

アッアッ♡

クチュ♡

騎士として
そして女として
その下等生物に
尊厳をこたは
織されたことが
織が止まらな
涙が止まらな
が屈辱で

肉を孕ませてもなお
捌け口として性欲の
捌け口にされる日々



アッ!

アッ!
アッ!
アッ!

ギイ♡

アッ♡

アッ♡

ブル♡

アッ♡

蟲は今日も妊娠中の私の臍内に
大量の精液を吐き出す

蟲の仔を孕んだ私の身体は
変わってしまった

おおおおお!!

ギョッ!!

ズルッ!!

私の母乳を
飲むなあ!!

やめろ...!!

臍内射精と同時に母乳が吹き出し
それを美味しそうに蟲が飲んで

自分の身体がこの蟲のモノになっ
てしまった
と私は認めたくなかった!!

ズルッ!!

ズルッ!!

ドッ!!

ズルッ!!



蟲は私が妊娠したことに気づいてから様子が変わった

以前のように乱暴に犯すのではなくゆっくり時間をかけて交尾をするようになったのだ



おそらくこの蟲はただ本能に従って種付けしているわけではない

胎の中の仔を気づかいつつ交尾という行為そのものを楽しんでる



妊娠後の激しい種付けより不快だ

ズルッ♡

アッ♡

又チャッ♡

アッ♡

ズルッ♡



まるで自ら蟲を受け入れて
いるかのように錯覚するうえ

自分の意思に反して身体は蟲の膣内射精の
快楽に反応してしまう



ズルッ♡
ズルッ♡
ズルッ♡

ズルッ♡

ズルッ♡

ズルッ♡

行為中母乳が噴き出ると蟲は生殖器が繋がったまま
美味しそうに母乳を囓る



抜かすに何度も射精された膈内からは
収まりきらなかつた精液がとめどなく
溢れ出ていた

さっさと抜け……ッ!

っわ……!

蟲が母乳をたらふく飲んで
腹ごしらえを済ませれば
再び長い交尾が始まる

無様な肉穴となった私の膈は
蟲の生殖器を拒絶するどころか
交尾をねだるかのよう
に啜え込んで離さない



やっと交尾を終えても今度は
乳房に吸い付いて離れなくなる



どうやら外で仕留める獲物よりも
私の母乳の方がコイツの好みらしい

細長い舌でベロベロと
乳首なめ回し



妊娠しているせいなのかはわからないが
必死に乳房をしゃぶる蟲を見ていると



今まで感じたことのないむず痒い感情が
胸の中に湧いて私は困惑していた...

母乳を吸い出す
これをずっと繰り返すのだ



ある日
ヤツが餌を探しに外に出ている時



純い痛みを感じたと同時に
母乳が吹き出た

ついにこの時がやってきたのだと悟る
蟲の仔が外に出ようと腹の中で動き回っていた



あんな化け物の仔を産む覚悟など
できていないはずが...

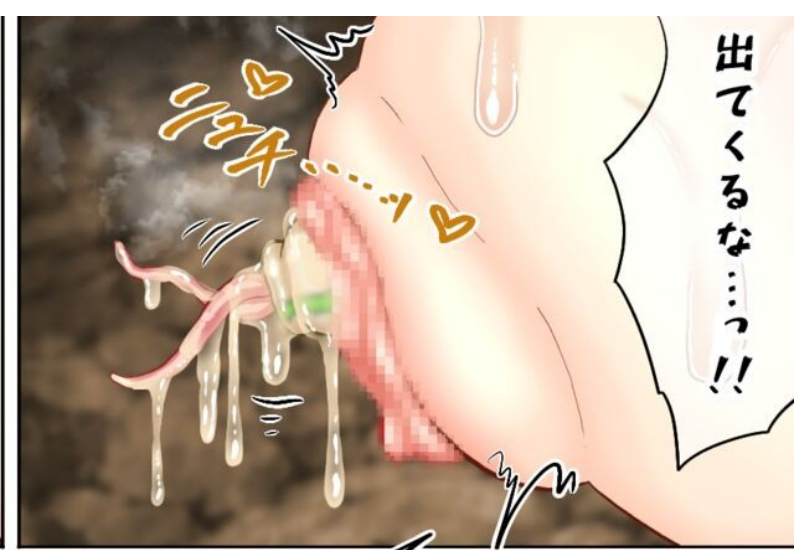
陣痛の間隔が徐々に短くなっている

産の仔はいとも簡単に子宮口を抜けて
膣口を目指し産道を進みはじめる

産まずに済む方法は無いかと
必死に思考を巡らせるが

私は足を大きく開いた
無様な格好のまま
動けなくなつた





出てくるな...!!

おび!!

ムリユ...♡♡♡

ムリユ...♡♡♡

嫌だ

産みたくない

産みたくない

産みたくない



おび!!

おび!!

おび!!

おび!!

産んでしまった

芋虫の子を産んでしまった



…コレを私が?

どう見ても芋虫…

ベト*…♡

信じられない

私が産んだなんて



私が…

私が産んだ

私の…

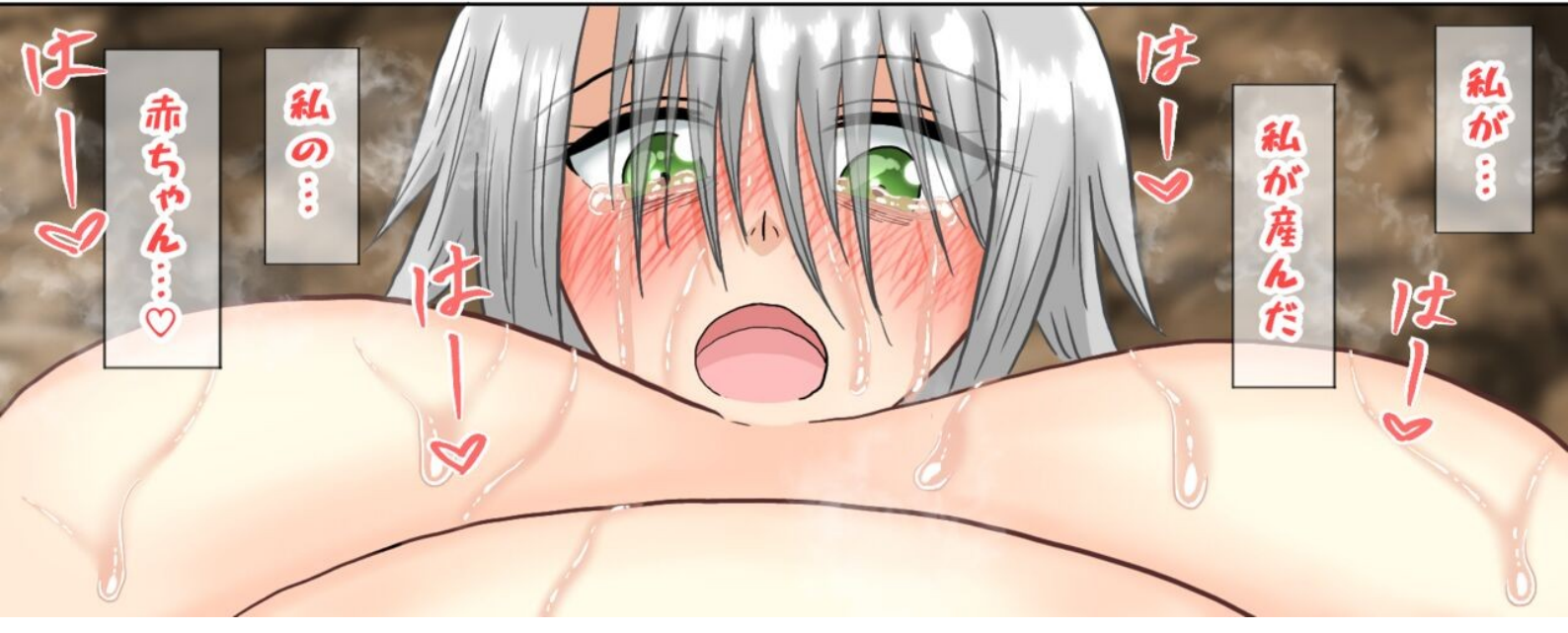
赤ちゃん…♡

はー♡

はー♡

はー♡

はー♡



産まれてきたのは殆どがヤツと瓜二つの見た目をした芋虫だった

唯一私の子だと判別できる部分は
胴体の緑色の模様とお互いを繋ぐへその緒のみ

そんな悍ましい生き物を産んだというのに

不思議なことに私はショックを受けることもなく
気色悪いとすら思わなかった

私を母親だと認識しているのだろう
短い足を懸命に動かしながらこちらへ這ってくる
芋虫を見ているうちに

私の胸の奥で温かい感情が芽生えていた

生まれたての幼虫は小さな口を開け
母乳を求めて乳首にしゃぶりついてきた

どのくらい飲ませて
いいんだ...?

ん♡
ん♡
ん♡

引き剥がすなど容易だが
なつても小さな虫にムキ
なつても小さな虫にムキ



ただこの乳首を執拗に舐め回すしぐさは...



食欲旺盛な赤ん坊だ

蟲とはいえ私の血が
流れているのだから当然か



ほどなくして巢穴に帰ってきた
父親の蟲は

幼虫に気づくや否や私に飛びついて
嬉しそうに顔中を舐め回してきた

?



無理矢理産ませた
んだらうが...

幼虫は初めて会う父親に最初は警戒している
様子だったが

すぐに父親だと気づいたらしく興味津々の様子で
なにやらコミュニケーションをとって始めた

2匹がどんなやり取りをしているか
わからないのが少し気に入らない!!



Fo....

親子の蟲は決して私から離れようとしなかった

ぢゅるるる♡♡♡

コイツは幼虫が眠ると次は俺の番だと
言わんばかりに乳房にしゃぶりついて離れない



この子の分が
無くなったら
どうするんだ

ぢゅは♡

ぢゅは♡

仔を産ませればそれで用済み
というわけではないらしい



子を産んだせいかわ
蟲は私を従順な雌と思
毒で身体を自由を奪うこ
をしなくなった

身体さえ自由になれば巢穴から逃げることも容易い

だが産まれた幼虫をどうすればいいのか
それだけが頭に引つかかっていた

決して蟲などに情が湧いたわけではない
産み落とした私の責任の問題だ

母乳無しにこの幼虫が育つことはできるだろうか？

この蟲が子育てなどできるのか？
かといって人間の世界で生きていくことはできないだろう

答えが出ないまま2匹との生活は続いた…



ちゅ♡
ちゅ♡
ちゅ♡



ちゅ♡
ちゅ♡

ちゅ♡

※産後1ヶ月経過



そのあと巣を去ることにした

悩んだ末に私は決めた
この幼虫が1匹でも生きていけるよう
なるまでは面倒を見て

ちゅ♡
ちゅ♡

ちゅ♡
ちゅ♡

ちゅ♡

ちゅ♡
ちゅ♡

ちゅ♡

しかし蟲の子育ては一筋縄ではいかない

ほら
もう充分だろう

朝の乳は
ここまでだ

まず一番の課題は
2匹の乳離れ

ギイッ!

ギイッ!

ギイッ!

おいっ!!

なんで
そうなる
!!

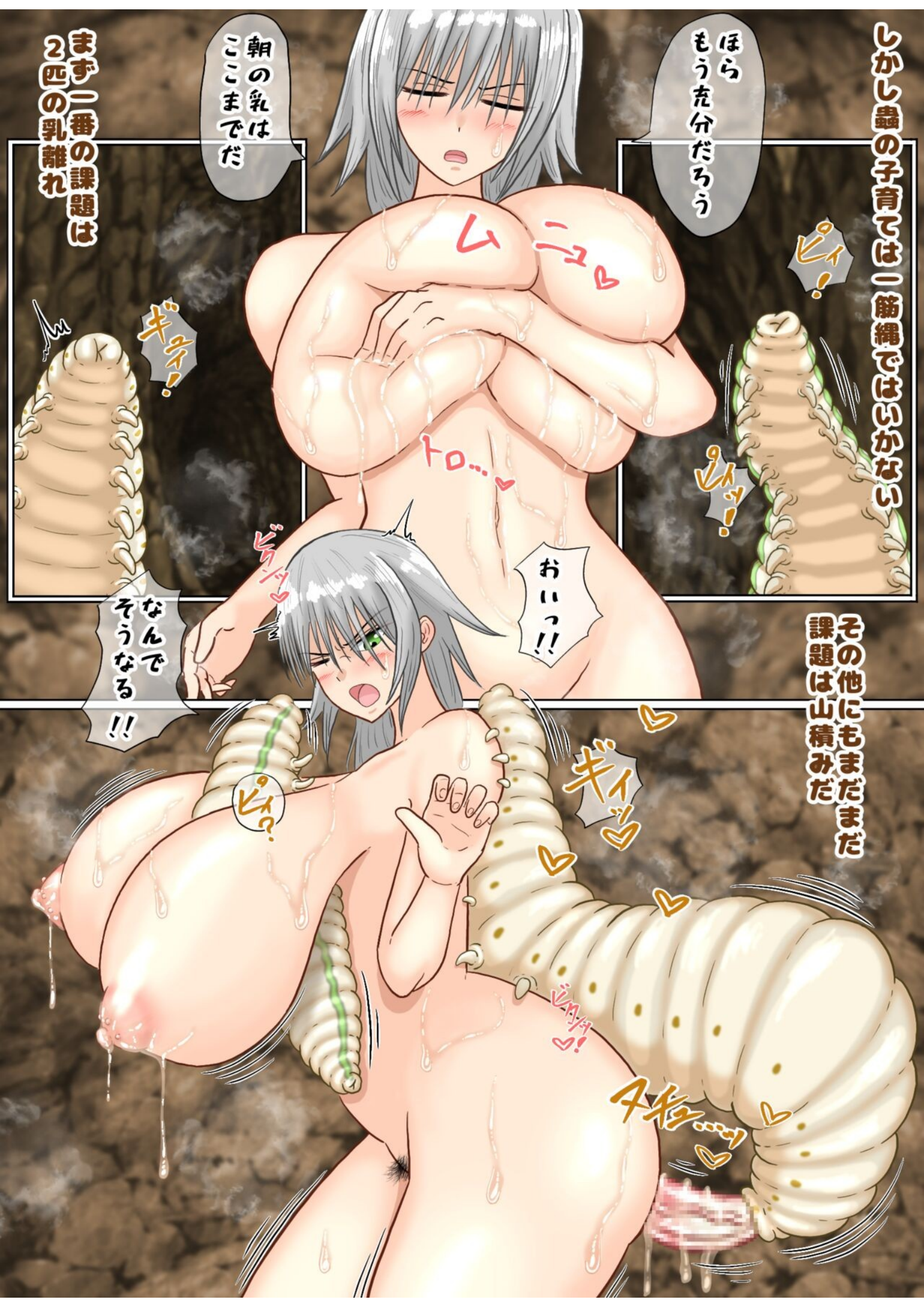
その他にもまだまだ
課題は山積みだ

ギイッ♡

ギイッ?

ギイッ♡

ギイッ♡



身体が自由を取り戻した今
自力で食料を集めるぐらい
造作もないことだが
幼虫が私から離れようとしないので

餌はやつに任せ私は巣穴で
子守りをしなければならぬ



まったく
姿が似ている父親なら
まだしも私に懐くとは

げん
ぽできたな

ググ

一刻も早く母離れしてほしいというの
手のかかる面倒のかかる仔だ



近頃この甘えん坊の世話をしていることがある

キキキ
キキキ

授乳中生殖器を勃起させるように
なつてしまったのだ

ビクビク

ビクビク

本人は勃起に気づいている様子もなく
夢中で母乳を飲んで

ちゅちゅ
ちゅちゅ

まったく…
アイツに
そっくりだ

虫の本能が母親である私を繁殖相手と
認識しているのかもしれない…

ビクビク!

ビクビク

ビク

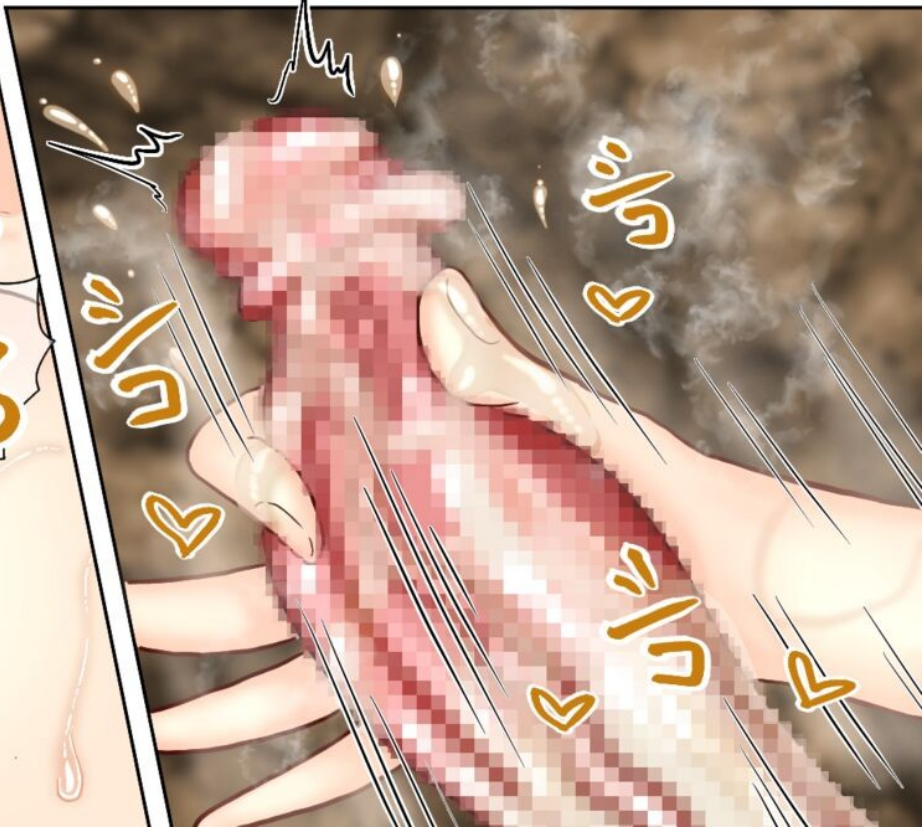
私は仕方なくこの子が変な気を起こす前に精通させてやることにした

こんなに大きくして…

ほら
じっとしてろ

大好きな乳房で挟んでやると
幼虫は簡単に大人しくなる

太くて長い生殖器からは産まれたばかり
とは思えない濃い雄の匂いがした



しばらく生殖器を上下にしごらるる
幼虫は初めての射精をした

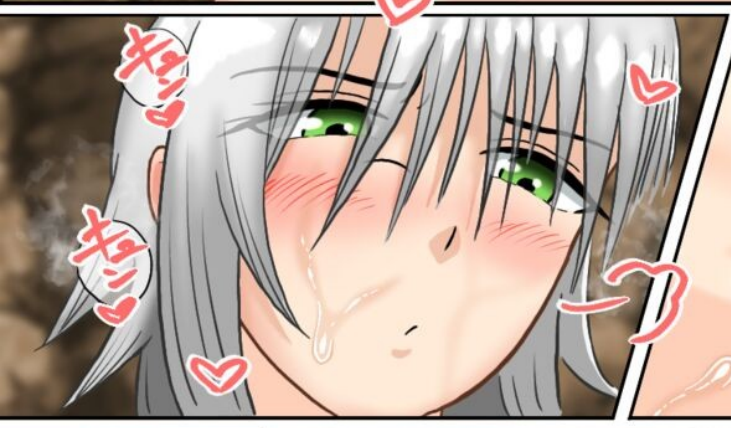


よほど気持ち良かったのか
射精と同時に胴体をのけぞらせ
ビクビクと痙攣してしばらく動けなくなっていました

ギョッ!!!

ビクビク!!!

ビク!!!



情けない息子である

母親に射精させて
もらって気絶とは

ビク!!!

ビク!!!

ビク!!!

ト...

やがて手でしてもらっただけでは満足できなくなった幼虫は

ズンズンと挿れたい...

うん

ブクブク!!

両乳の谷間に生殖器を挿し込んで、打ち付けるようになった

ブクブク!!

大量の精液を谷間に吐き出す

乳房に種付けするかのよう激しく打ち付けて

ブクブク!!

ブクブク!!

うん

ブクブク!!

ブクブク!!

ズンズン

ズンズン



射精も一度や二度ではない

べとオ...

ぐんぐん

幼虫が満足する頃は
乳房はいつも精液まみれ

射精の量も回数も
日に日に増えていった

〜SKI...



※訳 おなかへった!

ビィ!

ビィ!

Fo...

ビィ!

ビィ!

出産からしばらく経ち幼虫は体も大きくなり射精までできるようになった



とろとろ寝ろ

そろそろ乳離れぐらい...
せめて1匹で眠れるようになってほしいところなのだが



子育ては思ったように
上手くはいかず



こいつらの母としての生活が
どんどん長引いている



アキョウ♡

アキョウ♡

アキョウ♡

アキョウ!!

虫は私が抵抗しないのをいいことに
ゆっくり時間をかけて膣内を犯し

一日溜め込んだネバネバの
精液を子宮に流し込む

ギョウ♡

ギョウ♡

アキョウ♡

ブルブル♡

アキョウ♡

アキョウ♡

アキョウ♡



蟲は時に私の肛門まで犯す
おそろくつイツは毒を
使わなくとも逆らわない私を



従順で子どもを孕み
産み育ててくれる
便利な子袋とでも
思っているのだから

だとしてばら蟲らしい単純なヤツだ
この私が芋虫の苗床になどなるわけがない



まだ
するの
か



そもそも私とその気になればこんな
巢穴いつでもおさらばできるんだ

せいせい幼虫が育つまでのわずかな間



私が自分の物メスになつたとしても
思い上がつていれたい



たかが1匹蟲を産ませただけで

母乳が...

止まらない...ッ

私が騎士としての誇りを捨てると思ったら大間違いだ





起きたのかッ

まずい! まずい! まずい!

まずい!



ママと一緒に
ねんねしような

グイ

なでなで♡

よしよし♡

ほらもう大丈夫
ひとりで怖かったな

モニョ♡

抱き♡



私がいけないことに気づき夜泣きした幼虫は母乳を飲ませてやると安心してそのまま眠った

ようやく
落ち着いたか

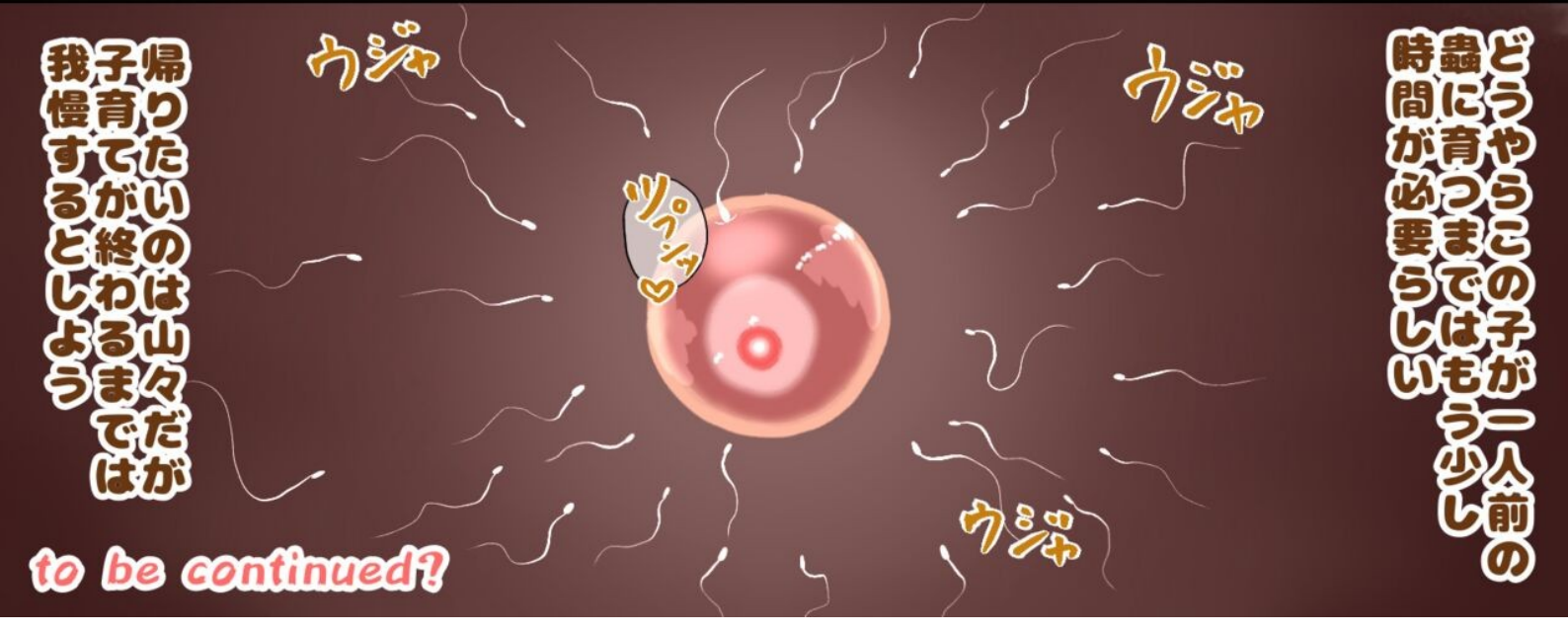
それもこれも
ツイツの交尾だ
しつこいせいだ



どうやらこの子が一人前の
蟲に育つまではもう少し
時間が必要らしい

帰りたがるのは山々だが
子育てが終わるまでは
我慢するでしょう

to be continued?



ご購入いただきありがとうございます

人生初の漫画作品でした
案の定蟲のデザインが過去作からほぼ変わっていませんが
目を瞑っていただけだと幸いです

最初の数ページと比べ
後半のデザインがやや変わっております
時間が足らず修正を諦めました
申し訳ありません

続編は反響次第で検討する次第です